

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年3月5日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0891900037		
法人名	株式会社 一陽		
事業所名	フレンズ牛久遠山	ユニット名	A棟
所在地	〒300-1215 茨城県牛久市遠山町479-1		
自己評価作成日	平成26年8月20日	評価結果 市町村受理日	平成27年3月2日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&JigyosyoCd=0891900037-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成26年10月16日	評価機関 決 済 日	平成27年2月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

より家庭に近い状態で過ごす事が出来るように利用者一人一人の意思を尊重して希望に添うように個別の対応をしています。一緒に洗濯物を干したり、たたんだり野菜の皮むきをしたり亀の餌やりや家事で出来る事を役割に持って頂き満足感を得る様に支援しています。利用者と職員が話題を共有できるように畑作り、プランターに花を植える等もしています。特に地域交流会・イベントの開催には力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所の回りには竹林や畑が広がり、住宅が点在する閑静な場所に立地している。
自治会に加入し、回覧板の受け渡しや地域の清掃活動、祭りなどに利用者と職員が積極的に参加し、地域との交流を大切にしている。
管理者は職員と日頃から何でも話せる人間関係を築き、意見や要望を聞いて働きやすい職場の環境づくりに力を入れているほか、職員同士も信頼関係を築いている。
事業所主催の行事に、地域住民にも企画の提案やイベントの準備などに参加してもらうなど、協力関係を築いている。
地域のボランティアを定期的に受け入れ、利用者と地域住民との交流ができるように支援をしている。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関先とスタッフルームに施設の理念を壁に掲げ常に確認している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成し、玄関や事務室に掲示している。 事業所の理念は各自で日々確認をしているほか、月1回のカンファレンス時に再確認をして認識を深め、共有しながら実践につなげている。 管理者と職員は理念について話し合いを行っており、来年の2月に現状に即した事業所独自の理念を作成する予定である。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会にも加入し自治会の行事（ゴミ拾い、ラジオ体操、運動会、かっぱ祭り）に入居者、職員とも積極的に参加している。又地域の方々にも施設のバザー交流会に多大な協力をしてくれている。	自治会に加入し、利用者は職員と一緒に地域の清掃活動や夏祭り、ラジオ体操、市主催の「かっぱ祭り」に積極的に参加し、地域の人々と交流をしている。 月3回のオカリナ演奏や月1回の民謡など、地域のボランティアを受け入れ、利用者が地域の人々と交流ができるように支援をしている。 年に1回事業所の交流会に家族等や地域住民の協力を得て焼きそばなどの模擬店や蕎麦打ち、バザーなどを開催し、利用者や家族等、地域住民の交流を支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症に関するパンフレットを用意し訪問してくれた家族や見学者などに理解してもらえるように渡している（地区の方の問い合わせにも対応している）区長や民政委員を通して理解してもらえるような体制をとっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回開催し、各職種間でそれぞれの立場より意見を出し合い、より良いサービスに繋がるよう協力している。またいろんな情報交換も行っている。	運営推進会議は家族等や地域包括支援センター職員、民生委員、区長、地域住民、職員で2ヶ月に1回開催している。 会議では事業所の活動や行事予定などの報告をするほか、行政からの連絡事項や出席者と活発な意見交換を行い、出た意見等を職員会議に報告して検討し、サービスの質の向上に活かしている。 地域住民から地域の運動会の誘いを受け、利用者は職員と一緒に参加をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者には、常に連絡を取り合い報告又は相談にのってもらっている。月1回市から相談員が利用者様の希望など伺い施設側に知らせて頂いている。	管理者は日頃から市担当者に分からないことがあったら電話で聞いているほか、市担当課に毎月足を運び、空室状況やケアサービスの取組みを伝え、連携を図りながら協力関係を築いている。 月1回市から介護相談員2名を派遣してもらい、利用者の要望や苦情の汲みあげに役立っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束や行動制限は原則行わない事とし、職員もケアカンファレンスを通して、対応方法等研賛している。	職員は身体拘束の内容とその弊害について理解するとともに、月1回のカンファレンス時に事例を通して再確認を行い、居室や玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 転倒防止のためやむを得ず、ベットに片側2点柵を使用している利用者があるが、管理者は身体拘束にあたるという認識がなく、家族等に説明し同意を得るまでには至っていない。	管理者と職員は身体拘束の内容と弊害について正しく理解をするため、研修を行うことを期待する。 やむを得ず身体拘束を行う場合は、家族等に説明し書面で同意を得るとともに、経過観察記録に記載し、定期的に検討して見直すことを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に1回行うカンファレンスやヒヤリーハットを皆で話し合い適切な介護について常に検討している。虐待に関する話し合いも行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症の方の施設である為、成年後見制度について研修をし話し合いをもうけ家族にアドバイスが出来るようにしている。成年後見制度の研修にも参加しカンファレンス時勉強会と報告もしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時内容を詳しく説明している。又分からない点は、いつでも聞けるような体制をとっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より御家族の意見をとり入れ反映されている。又玄関に意見箱を設置し記入できるようにしている。	利用者からは日常の問いかけや会話の中から、家族等からは来訪時や運営推進会議、イベント時などに意見や要望を聴くようにしているほか、年に1回イベント時に家族アンケートを実施している。 「食事にパンを取り入れて欲しい」や「余暇に社交ダンスを取り入れて欲しい」など、利用者から出た要望等を受けて職員会議で協議し、実行している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回ミーティングを開催し意見や提案が言える材会をつくっている。	管理者は日頃から職員に話しかけてコミュニケーションを図り、職員が意見や提案を出し易い環境を築いているほか、個々の事情を汲み入れた働き易い職場の環境づくりに努めている。 管理者は年1回職員と個人面談をしているほか、月1回の職員会議で職員の意見や要望を聞いており、行事の提案やトイレ、風呂の手摺の改造など、出た意見等を検討して運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の相談にのり働きやすい環境作りを心がけている。親睦会を行いコミュニケーションを図っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研習には積極的に参加してもらい職員自身の介護能力を高めると共に施設内研習も増やしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	各種連絡協議会に参加し交流を図っている。他の施設を見学し自分の施設のサービスを見直し検討している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初約1ヶ月はプライマリー以外の担当を決め、日々安心して生活できるよう心がけている。入居前会議も常勤で開催している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までの生活環境を配慮し、今までの家族の介護を受け入れなるべく環境の変わらない様に気を付けている。家族の意見や要望等受け入れる努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今、何が大切で何が必要かを見極め対応し優先順位に併わせサービスをしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活するように日々を暮らし、信頼関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と共に本人を支える一員として接している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来客の受け入れや、外出等を行い今まで大切にしてきた人達との関係を継続している。	入居時に利用者や家族等から話を聴いたり、基本情報シートを活用したりして利用者のこれまでの生活歴や馴染みの人や場所を把握している。 利用者の馴染みの人がいつでも気軽に来訪ができるようお茶を出して接待するほか、馴染みのスーパーやコンビニエンスストア、墓参りに同行するなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に外出したり、体操や食事を行いお互いの存在が意識しあえるような支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設のイベントの案内を送付したりボランティアで訪問していただいたりしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃よりコミュニケーションを図り本人の思いや希望を聞いている。又把握困難な人の場合は御家族から情報を得てカンファランス、モニタリング等で検討している。	職員は日常の関わりや会話を通して、利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めるとともに、個人ファイルに記載して職員会議で話し合い、共通理解をしている。 意思表示が困難な利用者の場合は、日々の生活の中での表情や仕草から判断したり、家族等から情報を得ているほか、職員会議で話し合っって利用者の思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式シートにより本人、家族より情報を収集し生活歴の把握に努め今まで利用していたサービス事業者に訪問したり情報を集めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方の記録を行い現状を把握し体調などに合わせた過ごし方を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月カンファランスを行い検討している。その方の状況に合わせた計画を作成している。職員全員で状態を把握している。	担当職員は利用者や家族等の希望、主治医の意見を取り入れて介護計画の原案を作成し、担当者会議で検討して計画作成担当者が介護計画を作成するとともに、モニタリングを実施して3ヶ月毎に見直しをしている。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、その都度介護計画を見直し、利用者や家族等の確認を得ている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録し情報を共有し介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に合わせ、買い物、通院、散歩等行っている。個別の要望に対応できるように力を入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	オカリナや民謡のボランティアとの交流や民生員や区の方々との交流を深めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望により受診を行う以外にかかりつけ医に往診に来てもらう等細かく対応している。	利用者や家族等が希望するかかりつけ医への受診は、家族等の付き添いを基本としているほか、協力医療機関の医師による月2回の訪問診療が受診できるように支援をしている。 受診結果は随時家族等と報告し合い、受診記録に記載をしている。 非常勤の看護職員による週1回の健康管理を実施している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員と協力し細かい状態の報告を行い健康の管理に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員が頻回に病院を訪問し様子を伺い体調を把握し病院関係者と連携している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護に関する説明を行いご家族に同意を得ている。終末期のあり方について研習し対応している。	契約時に利用者や家族等に事業所の看取りに関する指針を説明するとともに、書面で同意を得ている。 利用者の状態の変化に応じて、段階毎に利用者や家族等の意向を確認し、家族等の同意を得ながら支援をしている。 看取りに関する指針や、ターミナルケアマニュアルを作成するとともに、協力医療機関との24時間体制を整えており、今年4月看取りを実施した。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフ会議の時、インシデント、マクシデントについて話し合っている。緊急の対応も訓練している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者のもと、年2回の訓練を地域の方に協力して頂き実施している。	年1回消防署立会いの避難訓練を実施しているほか、事業所独自の夜間を想定した避難訓練を地域住民の参加を得て実施をしている。 避難訓練の実施記録を作成しているが、明確な実施記録を作成するまでには至っていない。 訓練で明らかになった課題を全職員で話し合って記録に残し、次回の訓練に活かしている。 災害に備えて食糧や飲料水を備蓄している。	避難訓練において参加人数や経過時間などを明確にした避難訓練実施記録を作成することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉づかいは、もちろんの事入浴や排泄時等プライバシーに注意し対応している。	職員は利用者の個性やこだわりに配慮し、一人ひとりの人格を尊重しながら、入室時のノックや声かけ、排泄時の声かけなど、周りの利用者にも配慮しながら対応をしている。 個人情報に関する書類は事務室にある鍵のかかる書棚に保管し、情報の漏洩に留意をしている。 個人情報を使用する場合は家族等の同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者がイベントへの参加等自己決定が出来るような雰囲気作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望を尊重し散歩、園芸、野菜作り等行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2、3ヶ月に一回理容師に来てもらい髪を切ってもらっている。イベント時には、職員が声かけし身だしなみに気を付ける様支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のあるメニュー（流しソーメン）を取り入れ全員で楽しんでいる。出来る範囲で準備（皮むき）の手伝いま又御膳の拭き方を手伝っている。	宅配業者による献立の食材が届き、職員が調理をして利用者と一緒に同じ食卓を囲み、温かい食事が摂れるよう支援をしている。 利用者はできる範囲で野菜の皮むきや盛り付け、配膳、後片付けなどの役割を担いながら食事を楽しんでいる。 流しソーメンや出前弁当などの特別食を取り入れ、食事が楽しみなものとなるように工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの取れた食事を提供し食事量や水分量等個別に把握し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科からの指導のもと毎食後口腔ケアを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日中はリハビリパンツを使用しトイレでの排泄を促し、夜間は個々に応じた対応をしている。	職員は排泄チェック表を活用して利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、タイミングを見計らって声かけ誘導し、トイレで排泄ができるように支援をしている。 おむつを使用している利用者でも、日中はリハビリパンツを使用し、排泄の自立に向けた支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の排便パターンを記録し把握。水分摂取と運動を取り入れ便秘予防を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回の入浴を実施。入浴の順番や入浴時間など個々の要望を受けている。	風呂は毎日沸かし、利用者の希望にそっていつでも入浴ができるようになっており、2日に1回の入浴を基本として支援をしている。 入浴を拒む利用者には強要はせず時間をずらしたり、声かけする職員を替えるなどの工夫をしている。 柚子湯や入浴剤などを取り入れ、利用者が入浴を楽しめるよう支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の入浴時間を把握し温度の調節や入浴剤等を利用し安眠出来る様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の説明を個別にファイルしいつでも確認が出来るようにしている。飲んでもらう時には声を出し日付、名前を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケや野菜作りなど個々に楽しんで頂き、メニューの記入や動物の世話等担当を決めて行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物には毎週利用者を連れてドライブを兼ね出かけている。一人一人に合わせ散歩の時間など取り組んでいる。	天気の良い日には事業所周辺を散歩したり、自家菜園の畑仕事を職員と一緒にするなど、五感を刺激したり、四季の移り変わりを楽しめるように支援をしている。 ウッドデッキに利用者がいつでも気楽に出て外気浴を楽しめるよう支援をしたり、事業所の車両を利用してつくばフラワーパークや買い物、花見などに出かけたりして気分転換ができるように支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の能力に応じて支払い等実施。外食時好きな物を食べ支払う等出来ることをやって頂く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話がかけられる様になっている。手紙の投函等を支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビング等イベントの楽しい思い出の写真や作品等展示し日々楽しめるようにしている。光や音への環境は、気を遣い配慮している。	広々とした明るい居間にはゆったりと寛げるソファやテレビを配置し、居心地よく過ごせるように工夫をしている。 居間の壁には職員が行事の時に利用者の様子を撮影した楽しい思い出の写真を掲示し、心和む演出をしている。 廊下は広く手摺を設置し、歩行訓練や手押し車での移動がスムーズにできるように工夫をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	固定された席の他にテレビ前や玄関など自由に過ごすことの出来るスペースを確保している。	/		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使用していた家具や家族の写真やぬいぐるみ等心地よい雰囲気作りを行っている。	居室にはエアコンやカーテン、クローゼットが備え付けられている。 利用者はベッドやテレビ、整理箆笥、椅子などの使い慣れた馴染みの物品や位牌などの大切な物品を持ち込んだり、家族の写真などを飾ったりして居心地よく暮らせるように工夫をしている。	/	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下に物を置かない様配慮し安全に移動出来る様に常に心がけている。	/		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが ○ 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 フレンズ牛久遠山

作成日 平成27年3月1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	6	管理者と職員に身体拘束の内容の研修を行う	会議で全職員に身体拘束研修し知識をつける	身体拘束の知識をつけてもらい、やむおえず身体拘束をする場合は御家族に同意してもらい期間を決め定期的に見直しをする	6ヶ月
2	35	避難訓練での参加者人数や経過時間を明確にし記録をつける	避難訓練実施記録への記入を新たに作成する	参加して頂いた地域の方々の名前を記入して良いか確認をし避難訓練実施記録への記入を了承していただいた。	6ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。